

生活空間を構成する園芸用品の開発

- 産官共同研究 -

岡田 征之* 木村 哲* 田中 賢治* 新木 隆史*

田中 雅夫** 小西 和頼**

野村 和宏*** 掛谷 幸司*** 清水 綾乃***

Development of Gardening Goods for the Spase of Life

by Seishi OKADA, Satoshi KIMURA,
Kenji TANAKA, Takashi SHINKI
Masao TANAKA, Kazuyori KONISHI
Kazuhiro NOMURA, Kouji KAKAYA
and Ayano SHIMIZU

〔要 旨〕

都市空間を志向した園芸用品の開発を目的に、インテリアの要素の強い製品群に注目しつつ、製品化のための試作を行った。製品群を把握するために使用場面を想定し、開発製品としてコンテナガーデン、フラワースタンド、ハンギング、鉢カバー等、主として形状、素材、機能を重点に検討し、モデル試作を行い、プレゼンテーション資料を基に市場調査を実施した。このことによって、園芸用品の現状と製品開発を行う上での問題点を抽出することにより、具体的な製品化への基礎的資料を得た。

1. はじめに

三重ブランド商品開発のために必要な製品情報と消費動向などを調査分析した結果から、高度な工業化を背景とする車社会、ハイテク産業がもたらす産物や製品の活用がアウトドアの新たな生活スタイルを生んでいることが推察できた。また、地域企業がより広範な製品開発対象を得ることができる分野としてアウトドア用品開発に着眼した¹⁾。そのなかでも最近、自然回帰の一つとしての園芸への関心は高く、自然志向の高まりとともに、園芸の楽しみ方も多様化しており、アウトドアの延長として、マンションのバルコニーなど

をはじめとする都市生活空間の植栽を施すための基盤が整備されていない場所においても手軽で便利なモノと方法によって、緑を楽しむ空間変化に対応できる製品群が求められている。それに関連して、数多くの園芸用品がみられるが、この研究では都市生活空間を志向した園芸用品の開発を目指した。

2. 試 作

2.1 対象製品

園芸用品の大半はアウトドアにおいて使用されるものであるが、試作にあたり、都市生活空間に対応できる製品群を開発対象とした。また、かつては中高年の趣味というイメージが強かった園芸に対して、新たに20代から30代の若い女性やニューファミリーが関心を示していることから、この若年層を対象とした。

* 製品開発室

** 研究指導室応用材料チーム

*** 株式会社明菱中部支社PD事業部

2.2 使用場面の想定

女性ガーデナーのためのグッズ

- (1) 庭がなくても草花は楽しめる.....
 - ・ コンテナガーデン(鉢植え, 寄せ植えバスケット, 植え込み用コンテナ, 浅鉢, 花台)
 - ・ 吊る・掛ける・飾る・ハンギング(水苔, ワイヤー)
 - ・ ウィンドウボックス(陶, 木, 金属)
 - ・ インテリアトレリス・プランター(木, 竹, ワイヤー)(パーツ, キット)
- (2) ベランダから菜園へ変身.....
 - ・ 趣味のハーブを自分風に(ハーブパーカーセット)
- (3) 花壇と庭づくり
 - ・ 女性のための庭づくりグッズ
 - ・ 高齢者のための庭づくりグッズ
土を起こす, 芝を刈る, 草花を移植する, 水をやる, 枝を切る, 運搬する, ゴミを集めるものであった. 自然志向が高まり, 園芸の楽しみ方も道具を収納する, ウエア(帽子, 手袋, ブーツ, シューズ)
- (4) 休日を楽しむグリーンまわりの家具・庭で楽しむリッチな気分
 - ・ テラスまわりの家具(テーブル, チェア, ベンチ)
 - ・ 野鳥の声を聞く(巣箱, 餌台, 水飲み台)
 - ・ ガーデンアクセサリ(カート)
- (5) ガーデナーへのプレゼント
 - ・ こだわりガーデナーへのギフト商品
- (6) 庭に明かりを.....
 - ・ 庭にも夜の表情(ランタン, 照明具)

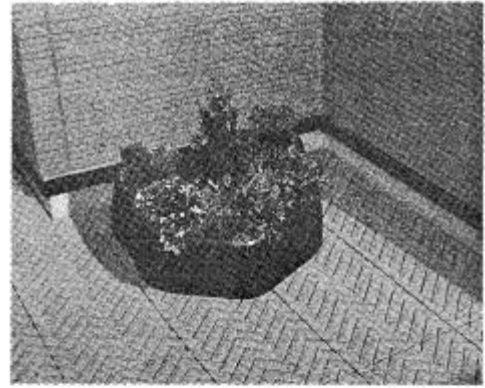


写真2 鉢置き式コンテナガーデン



写真3 ジョイント式コンテナガーデン

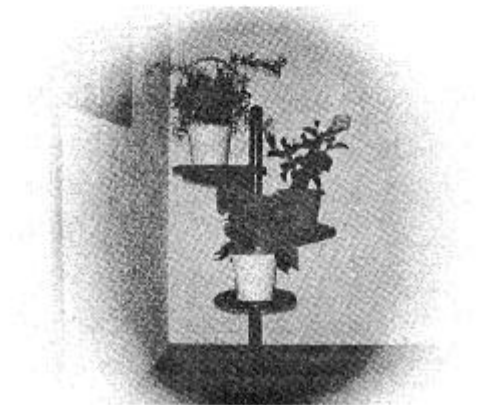


写真4 フラワースタンド

3. 結果と考察

カートリッジ式コンテナガーデン(写真1)・鉢置

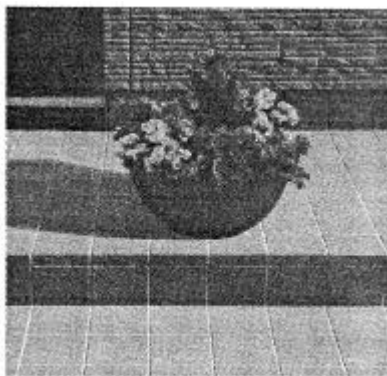


写真1 カートリッジ式コンテナガーデン

き式コンテナガーデン(写真2)・ジョイント式コンテナガーデン(写真3)・フラワースタンド(写真4)・ハンギング・ラッピング感覚鉢カバー等のモデルの試作を行い, (1)形状 (2)寸法 (3)重量 (4)素材 (5)機能 (6)金型 (7)価格 (8)販売展開等について分析, 検証した. 総合的に判断すると試作品はガーデンライフをインテリア感覚で楽しむには明確なコンセプト, 新しい提案再度改良を加える必要が認められた.

4.まとめ 問題点と対応

庭のない都市生活者にも園芸を楽しみ、自然を取り入れる、そのニーズを満たす製品群の開発を進めることは今後の市場獲得のため必要である。

試作モデルを基に市場調査を行ったが、天然素材が主流を占めている中で、素材をプラスチックと限定した場合、新たな市場参入は厳しいものがある。素材としてのプラスチックの再検討をはじめ、インテリア性

の高いものに、よりシフトするかは熟考を要するが、園芸用品の現状と製品開発を行う上での問題点の抽出により、具体的な製品化への基礎的資料を得ることができた。

参考文献

- 1) 三工技セ研究報告 No. , p10 - 13 (1995)